

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

2025 年 07月 09日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 工学研究科、建築学専攻

職 名・学 年 博士課程 三年生

氏 名 イタタヒン リンダ

助 成 の 種 類	令和7年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研 究 集 会 名	World Conference of Timber Engineering 2025 (国際木質構造会議2025)		
発 表 形 式	☐ 招 待 ・ ☒ 口 頭 ・ ☐ ポスター ・ ☐ その他(		
発 表 題 目	Parametric Library of Japanese joinery (日本の継手仕口の媒介変数的ライブラリーの構築)		
開 催 場 所	AUSTRALIA・Queensland・Brisbane Convention & Exhibition Centre		
渡 航 期 間	2025年 06月 14日 ～ 2025年 06月 30日		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 ☒ 無 ☐ 有()		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	250,000円	
	使用した助成金額	250,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳 (差し支えなければ要した 経費総額をご記入ください)	費 目	金額(円)
		航空運賃	166,004
		宿泊費	119,900
		滞在費	68,000
		学会参加費	
		その他(学会付属のツアー)	15,506
		369,410	
以上に助成金を充当			
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。)この助成金を賜り、心より感謝申し上げます。この助成金は、この会議とそれに続く現地視察にかかる費用を賄う上で大変役に立ちました。おかげさまで、論文の1章を無事に完成させることができました。		

成果の概要／

イタタヒン・リンダ

1. 参加した研究集会について

WCTE は、木質工学・建築分野における最新の技術開発とイノベーションを発表・議論する、世界有数の科学普及フォーラムです。世界中の研究、教育、そして実践のトピックを網羅しています。この会議には、世界中から研究者、エンジニア、建築家、コンサルタント、施工業者、プロジェクトマネージャー、サプライヤー、メーカーが一堂に会し、幅広い国際的関係者が参加しています。今年は 960 名を超える代表者が参加し、WCTE 史上最大規模の会議の一つとなりました。オーストラリアからは 250 名が参加し、日本、カナダ、アメリカ、ニュージーランド、ドイツからも多くの代表者が参加しました。

2. 報告者による発表の内容

この会議で発表したのは、「日本の継手仕口の媒介変数的ライブラリーの構築」です。まず、日本の伝統的な木工技術の創意工夫と、何世紀にもわたって建物の骨組みを作り、後に改修のために解体するためにどのように使用されてきたか、そしてこの知識が現代の木造建築に今日活用されるべきであると述べました。次に、大学研究者と建設会社が行っている寺社の改修プロジェクトにおいて、パラメトリックモデリングを用いた日本の木工技術の研究状況を紹介しました。最後に、私が収集した日本の木工技術ライブラリから 10 個の木製接合部のパラメトリックモデルに関する独自の研究を共有し、それらをモデリングし、最終的に設計者のニーズに応じて木材のさまざまな断面に自動的に適応できるプロジェクトで使えるようにしたプロセスを説明しました。私の発表は査読付き会議論文としてプロシーディングに掲載され公開されました。 <https://doi.org/10.52202/080513-0296>

参加者からは、私の研究の妥当性を認めていただき、デジタルファブリケーションを用いてこれらのジョイントを製作する次のステップについて質問するなど、好意的なフィードバックを

いただきました。また、木材工学の専門家からは、この研究を将来どのように発展させていくべきかについてコメントをいただきました。

3. 現地訪問

この出張中、シドニーとブリスベンの象徴的な木造建築物を訪問し、それらを設計した建築家にヒアリング調査を行いました。彼らは私に木材を選んだ理由や、どのような接合部が使われているかを説明してくださり、私の研究について貴重なアドバイスもくれました。

- 1- Macquarie university incubator and Ainsworth buildings guided by Luke Johnson from Architectus
- 2- Daramu house and International House Sydney buildings guided by Amy Dowse from Tzannes architects
- 3- New Sydney Fish Market guided by John Sham from 3XN architects.
- 4- Monterey Kangaroo Point guided by Simon Betteridge from Gardner Vaughan Group.
- 5- 25th King Street building guided by Ralph Belperio from Aurecon.
- 6- Upper house building guided by William Page from Koichi Takada architects.

これらの現地訪問を通じて、集成材や CLT などの木質建材と、それらが中高層木造建築物でどのように使用されているかについてさらに詳しく学ぶことができました。また、建築家からの説明により、このような種類の建物で木製ジョイントを使用する可能性についての洞察が得られました。

4. 謝辞

今回の国際学会への参加を助成いただいた京都大学教育研究振興財団に感謝申し上げます。助成いただいたことで、本概要に報告させていただいたように現地の研究者や建築家らと充実した多くの情報交換を経験することができました。研究をさらに発展させるために今後も努力を続けてまいります。